

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月27日)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①定時制生徒の多様なニーズに応えるカリキュラムマネジメントを進める。 ②基礎学力の定着と主体的で深い学びを実現するため、ICT機器の活用を含めた組織的な授業改善に取り組む。	①単元の指導と評価の計画等、常に指導計画の改善を図り、生徒の多様なニーズに応える授業計画を立案し、実現する。 ②授業改善を通して、生徒の学びを深めるとともに、生徒の特性を考慮したユニバーサルデザイン化された授業を展開する。	①各教科で作成する単元の指導と評価の計画は評価と指導の一体化を意識しつつ、学びに向かう態度を重視して作成し、授業を行う。 ②ICT機器を効果的に用いるなど全ての生徒が分かりやすく取り組みやすい授業を行い、生徒の学びを深める。	①年間指導計画及び単元の指導と評価の計画において、評価と指導の一体化を意識して、学びに向かう態度を重視して作成されているか。 ②研修等でICT教材が効果的に用いられた授業例を共有し、授業改善につなげることができたか。ICT教材が使用しやすい教室整備を進めたか。	①全ての生徒が分かりやすく取り組みやすい授業をテーマにして授業改善を行った。 ②全てのHR教室にモニターを設置した。教科会等を通じて、ICT機器等を用いた効果的な方法を共有した。	①教員の取り組みが生徒へどのような影響があったのか検討し、本校にとって分かりやすく取り組みやすい授業に効果的な手法を検討する。 ②ICT活用の手法を教科毎で共有し、誰もが利用できるようにする。学びを深める効果的な手法を共有する。	①分かりやすい授業をキーワードにした授業改善、学ぶ楽しさを感じ得る授業展開の継続を期待する。 ②手段としてのICTの活用を推進し、分かる授業に繋げている。	①指導と評価の一体化を目指した授業展開を意識しながら、生徒の実情に合わせた指導計画を推進している。 ②ICTを活用することでの具体的な効果を検証し、すべての生徒が学びを深めていくための工夫を進める。	①指導計画の改善を常に図りながら、生徒の主体的な学びに向かう環境を整備していく。 ②効果的なICTの活用を目指した研修を充実させ、教科を越えた共有を図る。
2 生徒指導・支援	①他者を尊重し、良好な人間関係を築き、社会で生き抜くために必要な力を身につけられる支援を行う。 ②SC、SSWの活用や外部機関との連携を図り、一人ひとりの生徒に合った相談体制・支援体制の充実を図る。 ③生徒の主体的・積極的な活動の支援体制を確立する。	①生徒一人ひとりの抱える問題・課題の解決を支援しながら人間的成長を後押しする。 ②多様化、複雑化する課題を抱える生徒に対して、情報把握とその共有を行い、組織的で機動的な生徒支援体制を構築する。 ③学校行事や委員会活動等、生徒の関心・意欲を高め、主体的に運営・参加できる機会を増やす。	①生徒の変化や問題の早期発見ができるように、声掛けやコミュニケーション、個別面談の機会を多く持ち、助言、助力していく。 ①課題を抱える生徒に対し、担任、養護教諭、SC、SSW等と協働し支援体制を強化する。 ②学校行事への主体的な参加を促し、達成感を味わわせるよう支援を行う。部活動では技術指導のみでなく意欲的な活動を引き出し、社会性と積極性を育む指導を心掛ける。	①声掛けやコミュニケーションの機会を多くもつことができたか。機会をとらえた個別面談を行うことができたか。 ②生徒情報交換会等を通して課題を抱える生徒状況の把握ができたか。個々の課題に対して適切に支援体制を整えることができたか。課題の解決・対応につなげることができたか。 ③行事の満足度は高かったか。 ③行事の満足度は高かったか。充実した部活動が展開されたか。	①年度当初の会議で職員の共通認識を持った。面談等を活用し、生徒の課題や悩みの早期発見につなげた。 ②生徒情報交換会等を通して生徒の状況の把握ができた。支援体制の見直しを進めつつ支援をした。 ③アンケート調査では満足度は高く、生徒の積極性が見られた。部活動についても全国大会出場も複数あった。	①不登校の生徒が多くいるため、細かく対応していくことが課題である。 ②今後も継続的に生徒情報交換会や研修の機会を設けて生徒理解に努める。各年次の係が主体的に校内外の資源を活用しながら支援に関わる体制を整えたい。 ③体育祭と文化祭は来場者を制限する中で行ったが、社会情勢を踏まえて考える必要がある。	①個々の生徒に対する支援がきめ細やかであり、体制が整備されている。 ②生徒を多面的に捉えていることが、課題の把握とその解決につながっている。 ③充実した学校生活により、生徒の積極性が向上している。	①職員間の情報共有会や面談週間を年度当初に設定し、スムーズな生徒理解と支援を図っている。また、外部機関との連携を密にすることで、協働体制を構築した。 ③多様な生徒がより積極的に行事や部活動に参加し、学校生活を豊かなものとしている。	①不登校等の課題を抱える生徒が、学校とつながるためのさまざまな取り組みを進めていく。 ②外部機関を含めた多様な人的資源と連携し、適切な支援体制を構築していく。 ③学校行事をはじめとし、生徒の自己肯定感を高める活動の充実を推進していく。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月27日)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	<p>①生徒の幅広い進路希望やニーズに応じた支援体制の確立を図る。</p> <p>②生徒が主体的でたくましく社会を生き抜くことができる力を育成する。</p>	<p>①多種多様な生徒の進路ニーズをよりの確に把握するとともに、組織的に支援できる体制を構築する。</p> <p>②インターンシップ等を活用し、職業観を育てるとともに生徒が自ら進路選択ができるように支援を行う。</p>	<p>①生徒とのより深い対話を担任に働きかけ多様なニーズの把握に努めるとともに、SCCとの協働を進め外部資源も活用し、より適切な進路実現を目指す。</p> <p>②段階的なキャリア教育のプログラムを実践するとともにキャリアパスポート等を活用し、生徒の進路に対する意識の熟成を図り、将来を見据えた主体的な行動に導く。</p>	<p>①担任への働きかけは適切にできたか。SCCとの協働や外部資源の活用を進められたか</p> <p>②キャリアパスポート等の活用はできたか。</p>	<p>①より深い対話の必要性を担任と共有することができた。分教室への助言の依頼等、外部資源を活用して支援体制の構築に努めた。</p> <p>②各年次のキャリア教育について本校で作成したキャリアパスポート等を活用して学習の定着を目指した。</p>	<p>①より深い対話による支援を継承し拡大していくことが課題。進学・就職ともに次年度担任団への引継ぎを行う等、職員への働きかけを継続する。より適切な支援に向けて外部資源の積極的な活用も継続する。</p> <p>②生徒の考える力の育成に取り組む。インターンシップの活用を促進する。</p>	<p>①個々の生徒に対するきめ細やかで粘り強い援にシフトしている。その継続のためにも人的資源が欠かせない。</p> <p>②企業等の社会人による講演会等、外部との連携も進めて欲しい。</p>	<p>①個々の生徒とのより深い対話をはじめとし、多様な進路ニーズに応える支援を推進している。</p> <p>②外部支援の利活用に工夫しながら、生徒が主体的に考えていく力の育成に効果的な取り組みを行うことができた。</p>	<p>①外国につながる生徒の進路支援や、福祉就労関係をはじめとする様々な進路に対応する支援体制を継続していく。</p> <p>②キャリアパスポートの活用において、個々の生徒の特性を見極めた適切な支援を共有していく。</p>
4	地域等との協働	<p>①学校の情報発信を積極的に行い、地域との連携を深める。</p> <p>②ボランティア活動等への参加を通して、地域との連携を深める。</p>	<p>①学校運営協議会等を活用し、地域や保護者と連携・協働した活動を通して、CSとして信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>②情報発信を早めにするなどボランティア活動への参加を通じた地域との連携を進める。</p>	<p>①学校ホームページやICTを活用し、保護者会や学校運営協議会との連携を深めるとともに学校充実を図り情報発信を行う。</p> <p>②ボランティアガイダンスやセミナーからの効果的な情報発信や地域との連絡体制を密にする。</p>	<p>①活動に制限があることを前提に保護者会や学校運営協議会を課題を明確にして開催できたか。また充実したホームページの更新ができたか</p> <p>②ボランティア参加が増加したか。また、地域との連携を進めることができたか。</p>	<p>①活動に制限がありながら定期的に保護者会を開催し、行事に参加するなど連携を深めた。</p> <p>②ボランティア参加は例年並みであったが、意欲的な取り組みが見られた。また地域貢献デーにおいて学校周辺の清掃を丁寧に行った。</p>	<p>①保護者会との連携をさらに充実させるとともに地域との連携を深める工夫をする。</p> <p>②単位取得を目的とする生徒にはボランティア本来の心得も理解させる。</p>	<p>①地域からの理解を得られるような取り組みが広がっている。今後の継続を望む。</p> <p>②ボランティア活動において、今後も活性化していくとよい。</p>	<p>①学校運営協議会や保護者会をはじめとした地域、保護者との連携を深めると共に、情報の発信を推進した。</p> <p>②ボランティア活動への主体的な取り組みを促す仕組みづくりを工夫していく。</p>	<p>①活動の限定性を実態に合わせ検証し、目的を明確にした連携を推進する。</p> <p>②ボランティア活動への主体的な取り組みを促す仕組みづくりを検討する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒を第一に考え指導方針を共有し、生徒・保護者のニーズに応える学校づくりを行う。</p> <p>②一人で業務や悩みを抱え込むことがなく、健康で明るい職場環境を構築する。</p>	<p>①生徒による授業評価等を活用し、生徒・保護者の状況を分析し、教職員で共有する。</p> <p>②働き方改革を念頭に置き、適切な職務管理を行うとともに職員一人ひとりが共有、協働の意識が心掛ける環境を構築する。</p>	<p>①生徒による授業評価等を活用し、授業改善やコミュニティ・スクールなどに関する校内研修会を開催する。</p> <p>②信頼される学校にするために、職員のコンプライアンスの意識の醸成を行い、絶対に事故不祥事をおこなさない学校にする。</p>	<p>①生徒による授業評価等を活用した授業改善やコミュニティ・スクールなどに関する研修会を開催できたか。</p> <p>②適切な不祥事防止会議を実施できたか。職務管理ができたか。職員一人ひとりが協働の意識を高める環境を構築できたか。</p>	<p>①生徒による授業評価を活用するなど授業改善を目的とする研修会を行った。</p> <p>②適切な不祥事防止会議を実施できたか。職務管理ができたか。職員一人ひとりが協働の意識を高める環境を構築できた。</p>	<p>①授業改善の機運は高まっており、さらに進めるとともにコミュニティ・スクールの活用に取り組む。</p> <p>②職員がより主体的にかつ協働の意識が高まるようにグループが主体となる事故防止会議の開催等に取り組む。</p>	<p>①学校生活における生徒の満足度はより高まっており、組織的な取り組みの成果が表れている。</p> <p>②一人ひとりの職員が協働する環境を整備した。</p>	<p>①生徒による授業評価等の活用と共に、ICTを利活用した授業の研修を継続した。</p> <p>②様々な課題を職員が一人で抱え込むことのない、風通しの良い職場環境の構築を推進していく。</p>	<p>①生徒の実態に応じた組織的な授業改善の方策を、更に検討していく。</p> <p>②働き方改革と協働を意識した、事故不祥事の起こらない職場を目指す研修を工夫していく。</p>